

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393200029		
法人名	株式会社 いずみ		
事業所名	グループホーム 菜の花 苓北		
所在地	熊本県天草郡苓北町志岐151-1		
自己評価作成日	令和 4年 1月 5日	評価結果市町村報告日	令和 4年 5月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和 4年 3月 29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

苓北町は小さい町で、職員もほぼ町内住民が多いため、気軽に地域行事に参加していたが、今はコロナ感染症のため行事も中止になり参加できていない。異常時は病院との連携により看護師と共に受診し早めに対応できている。不十分ではあるが、本人の持っている能力を引き出すよう、役割を持って頂いたり、体を動かす機会の支援を行っている。元気なうちに行きたいところに行く、したいことをするという事で、相談しながら、人混みを避けてドライブへ出かけたり、ホーム内で出来る行事を考えて楽しみを持って頂くようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所での入居者の生活も長くなり、高齢化・重度化も感じるようになった中ででのコロナ禍でしたが、「その人らしく自分らしく」の理念のもと穏やかで和やかな毎日を過ごす入居者の姿がありました。「できること」を大切にし、時にはウッドデッキでひなたぼっこや食事を楽しむ様子も聞かれました。食事は職員手作りで提供されており、干し柿作りや季節のおやつ作り、行事食と、自宅での生活がそのまま継続しているようです。感染症リスクレベルに応じて面会制限も行われましたが、入居者の笑顔いっぱいの写真や職員からの手紙を添え、関係作りにも努めて来られました。毎月の職員研修・勉強会も充実しており、職員面談においても入居者一人ひとりの生活を支えるため、学びを重ねる姿がありました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく・自分らしく・思いやり・安らぎ・ありがとう・笑顔あふれる菜の花」の理念を掲示し、業務中のミーティングや出退勤時、職員個人の振り返りを行っている。	理念は毎年4月頃の職員研修において振り返る機会を持っている。会議では「理念をもとに、利用者・職員の笑顔の循環が地域に広がっていくような事業所を目指す」ことを共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の職員がおり、一員として、常会の出席、回覧板当番やクリーン作戦に協力した。	コロナ禍により従来の地域との活動がほとんど無い状況であった。地域と事業所の繋がりや、地域清掃に参加したり常会の出席等、日頃からの地域の一員としての生活が営まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナにて会議は書面上のみ、行事も中止になり参加できていないが、キャラバンメイトとして小学校に認知症サポーター研修として協力している。傾聴ボランティアとして登録しており、依頼があれば協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの生活状況や活動報告を書面上一に行っている。	例年6回の会議を開催しているが、今年度はコロナ禍で開催が難しく、事業所の取組みや入居者の様子、職員の研修状況等を書面により報告している。	書面により事業所の取組みをされていますが、会議開催が難しい状況の中、入居者・家族・地域等、多面からの意見を得る機会作りの工夫に期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連絡を取りあっている。運営推進会議は書面上にて報告、苅北町介護保険運営協議会委員として会議に出席している。	運営推進会議開催時は役場からの参加を頂いており、事業所の取組みや入居者の状況を報告している。現在は書面による報告であるが、報告の際は出向き、直接お渡しし情報交換を行っている。地域包括支援センターとは日常的に町内の情報交換等を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修実施している。玄関にはチャイムを作動している。入居者の行動には絶えず把握できるようにしているが、時々知らないうちに外へ出ておられることあり。	身体拘束をしないケアについては定期的な研修で職員間の共有を行い、カンファレンス等で振り返りながらケアの実践を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い全職員の理解浸透の取り組みを行っている。入浴時等全身症状確認している。		

グループホーム菜の花北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行い全職員の理解浸透の取り組みを行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解して頂いていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言動のみならず非言語もキャッチしその人の思いを察するよう日々の申し送りノートに記入し共有できるようにしている。家族面会時意見など言いやすいよう心がけている。	入居者の思いは職員との生活の中での会話や寄り添いで把握している。家族とは入居者の状況報告等を機会に意見を得る関係作りを行っている。接遇研修では「入居者・家族とのよりよい人間関係づくりのために」のテーマで学ぶ機会を持ち、意見を表すことのできる関係作りに取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや月1の職場会議などで意見を出し、職員全体で反映できるよう記録している。	各ユニットの管理者は日頃からケアに携わっているため、職員は日常的に管理者へ意見や提案を表す機会を持つ他、毎日の申し送りや毎月の職員会議でも表すことができる。必要に応じ法人会議に出席し職員の意見を伝え検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場会議や現場等で意見や悩みの把握、事業計画など報告し現状の理解に努めている。賞与査定行い支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人に合わせた、内部、外部研修を行い、法人として資格習得を促進し、優先しての勤務希望、休日の考慮などを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	天草グループホーム連絡協議会や町の研修会に参加し、他事業所との意見交換、研修を行った。		

グループホーム菜の花北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族及び居宅ケアマネからの情報提供に加え本人とも入居前面談、入居初期は関わりを深く持ち、本人の思いを知るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前見学や面談、入居時面談を含め、家族の思いを知るように努めている。面会時など気軽に話しやすい雰囲気づくりに心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時状況確認しサービス利用中の方は担当ケアマネと連携している。又サービス利用されていない方には申請の方法や地域包括支援センターに連絡対応を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理・洗濯たたみ・掃除など本人の持っている力を引き出し職員と共に行えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や入居生活状況の報告をし在宅での暮らしぶりなどを知り、欲しい物やしたいこと、受診など協力してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのかかりつけ医や四季折々の行事に地域に出向いていた。その方の地区の敬老会に参加していた。	町の住民であった入居者が殆どであり、通院時等には知人と会う機会もある。近年コロナ禍で町の行事等が中止となり入居者が出向いての関係支援は行えていないが、家族との関係が希薄にならないよう面会方法の工夫等により関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	言動・表情・行動などを見極め、孤立化せぬよう声かけ、会話、時には冗談を言い、気の合う仲間と交流されたり、利用者の行動を見守ったり、会話されたりと支え合う場面がある。		

グループホーム菜の花北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関入院された方にはお見舞いに出かけていた。ホーム生活での思い出など話したり、亡くなられた方にはお参りに行っている。施設入居された方には施設職員から現状を聞いたりしている。地域で家族からお話聞く場面もある		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言動、行動、表情から真意を推し量ったり、家族から聞くようにしている。家族の意向と本人の意向が食い違う場合はできるだけ本人本位されるようにしている。	入居者の思いや意向は職員との日々の会話や寄り添いの中で把握している。思いを表すことが難しい際には声掛け時の様子等で把握している。生活の中で買い物や食事の希望が出ることもあり、朝食をパンにしたり好みのメニューを取入れる等も日常的に行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前担当ケアマネからの情報提供、本人との会話や家族、親戚、近隣の知人の方の面会時など把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の関わりや経過録、申し送り、個別カンファなどを含めて把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向の確認や本人との毎日の関わりの中から言葉・表情・行動から察知したカンファや担当者の意見を反映している。	介護計画作成担当である管理者は日頃からケアに携わっているため、入居者の普段の様子を把握しており、毎月の職員会議や随時のカンファレンスで各入居者の担当職員や他職員も意見を出し合い、現状に即した介護計画の作成や見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の関わりや経過記録や各チェック表、申し送りノートに気づき事項の記入や個別カンファで職員全員で共有し、定期、変化時に見直し活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ病院受診や外出支援など行っている。職員は業務優先とせず利用者優先を心がけている。		

グループホーム菜の花北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人のなじみの地域や知人などと交流できる行事計画や参加、外出を行っていた。日常的に心身の力を維持改善できるよう生活の中での支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を、本人、家族の意向のもと継続し、定期受診後、家族には面会時、また、変化時電話連絡や手紙で報告している。訪問診察を受けている方もいる。	入居前からのかかりつけ医の継続した受診を支援している。訪問診療、通院とみられるが、通院の際は職員支援を行っている。状態変化による診察の際には家族へも連絡し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を非常勤1にて配置、異常時等電話連絡にて対応している。必要時、かかりつけ医に連絡、受診介助している。受診結果は経過録や申し送りノート記入し職員全員把握できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時家族と共に主治医から治療方針、期間などを聞き、担当者に日頃の状況を口頭や書面で情報提供している。入院中もできるだけ面会に行き、経過を聞き、退院時は入院中の経過、退院後の留意点など口頭や書面で情報提供してもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時看取りまで行うことを説明している。重度化した場合、ホームでできる事を説明し、医療機関との連携を行い、本人、家族の意向を踏まえ、家族と共に尊厳ある終末期を迎えられるようチーム全員で支援していく予定である。	入居時、事業所の対応・体制について説明している。家族の希望により看取りまで受け入れるが、医療措置が必要になった際には希望によって医療機関へ移られる例もある。職員は外部研修も利用してエンゼルケア、看取りに関して受講している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて緊急時対応や利用者の個々の対応など随時対応できるようにしている。急変時は管理者、看護師に連絡し、かかりつけ医受診等の対応を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地区の防災訓練や事業所での年2回の訓練を全職員で行っている。近隣住民の協力もあった。	年2回の火災避難訓練を継続している。大雨時の地域の困りごとの解消等、地域での取組みも見られる。災害リスクの避難行動の共有、緊急点検チェックリスト、電気器具類による火災対策チェックリストによる点検も継続している。停電に備え自家発電の導入も検討しているところである。	

グループホーム菜の花北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人のプライバシーを保つよう心がけている。なじみの言葉かけや時には冗談で笑顔を引き出すようにしているが、危険行為や他の利用者の迷惑行為時などは注意する場面もあり、その後のフォローを行うようにしている。	職員研修で接遇マナーを学び、一人ひとりの尊重とプライバシーへの配慮を行っている。時には方言も交え、しかし馴れ馴れしすぎないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言動・表情・行動などを見極め、さりげなく声かけしたり、準備したり、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、入浴や役割など一人一人のペースに合わせ支援し、その日の気分を見極め、気分転換や個別に会話し思いの把握支援に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後化粧水、乳液個別に支援し、衣服の選択など本人に行ってもらっている。理美容は本人、家族意向のもと、行きつけや福祉美容室を利用。外出時は本人、家族の希望の衣服を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日に旬の物や頂き物等みて行事食やメニューを相談、調理や後かたづけなど職員と一緒にいる。	ユニット各々職員手作りの食事を提供している。地域で収穫される野菜を頂く機会もよく見られ、旬の食材を使った地元で馴染んだ食事がテーブルを飾る。職員研修では「栄養の基本」をテーマとした日もあった。出来るだけ調理や後片付けにも入居者の関わりを持つ支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の嗜好、食事量、形態を把握、提供し摂取されている。水分の入らない方にはとろみを付けたりお好きな物を飲んでいただくよう心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後誘導し一人一人の能力に応じて職員が見守ったり、介助している。就寝前はポリデントにて除菌や日中はコップ、歯ブラシの日光消毒や適宜ハイター消毒し清潔にしている。		

グループホーム菜の花北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、個別支援している。日中はトイレ排泄を基本に、排泄前のサインをキャッチし誘導している。	できるだけトイレでの排泄を支援している。入居者の仕草や時間を見てそれぞれに合わせた個別対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、乳製品、繊維質の多い食品の調理や排便時間把握や排便前のサインをキャッチし運動、腹部マッサージ、腹圧などにて支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度入浴日は設定しているが一人一人の体調や意志、汚染状況に応じ随時対応。入浴されない日は部分浴し清潔保持に努めている。	毎日入浴できる状況を整えており、基本的週2～3回を支援している。寝たきりの入居者は二人介助支援で清潔保持しできるだけ気持ちよい時間となるよう支援している。機械浴も完備している。研修で入浴介助の勉強会も開催している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中役割やレク活動を行い生活のリズムを支援しているが、昼夜逆転の方には本人のペースに合わせ、職員が寄り添い支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルや服薬袋にて効能を把握できるようにしており、服薬チェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力を発揮できそうな事を準備支援している。行った後は必ず感謝の言葉を伝えている。行事、外出、レク活動など支援し気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナのためなかなか難しかった。コロナが少なくなったとき、他施設の家族に会いに行かれたことがあった。	コロナ禍であることから日常的な外出支援は難しい状況であったが、気候に応じて散歩やドライブを予定している。ユニット間の往来やテラス等で日常生活で外気を感じることはできる。家族支援での外出も見られた。	

グループホーム菜の花北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を持って好きな物を買われる方もいる。家族に買い物頼まれたり、家族から預かり金を管理し出納帳を記録し家族に確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や本人の要望時、子機にて話されるように支援している。携帯電話利用されている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面キッチン、高低差のある調理台・洗面台・天窓やサッシからの採光。トイレには見やすい表示などでわかりやすくしている。	明るく温かみのある共用空間にはキッチンで料理する様子や香りを感じることができ、入居者の寛ぐ姿がある。リビングからウッドデッキへ繋がる造りであるため、外気を感じることもできる。車椅子利用も増えたことから安全にも配慮した配置を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室・ホール・ウッドデッキには椅子、ホーム内空間には置物やお花、季節に合った飾り物など居心地の良い空間作りに工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時馴染みの物を持ってきていただくようにしている。簡単な家具を備えているが、自宅より持参される方もいる。	入居時に家族の協力も得ながらできるだけこれまでの生活が継続できるよう、使い慣れた生活用品等の持ち込みを依頼している。入り口には入居者それぞれ柄の違うのれんを掛け、目印でもありながらプライバシーへの配慮もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかりやすい表示、居室個別のれん、手すり設置やトイレ手すり、玄関段差赤テープ目印、ホールは車いす移動、空間は机や椅子を設置し、安全に配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく・自分らしく・思いやり・安らぎ・ありがとう・笑顔あふれる菜の花」の理念を掲示し、業務中のミーティングや出退勤時、職員個人の振り返りを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の職員がおり、一員として、常会の出席、クリーン作戦や神社の掃除に協力した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナにて会議は書面上のみ、行事も中止になり参加できていないが、キャラバンメイトとして小学校に認知症サポーター研修として協力している。傾聴ボランティアとして登録しており、依頼があれば協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの生活状況や活動報告を書面上にて行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連絡を取りあっている。運営推進会議は書面上にて報告、苅北町介護保険運営協議会委員として会議に出席している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修実施している。玄関にはチャイムを作動している。入居者の行動には絶えず把握できるようにしているが、時々知らないうちに外へ出ておられることあり。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い全職員の理解浸透の取り組みを行っている。入浴時等全身症状確認している。		

グループホーム菜の花菘北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行い全職員の理解浸透の取り組みを行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解して頂いていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言動のみならず非言語もキャッチしその人の思いを察するよう日々の申し送りノートに記入し共有できるようにしている。家族面会時意見など言いやすいよう心がけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや月1の職場会議などで意見を出し、職員全体で反映できるよう記録している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場会議や現場等で意見や悩みの把握、事業計画など報告し現状の理解に努めている。賞与査定行い支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人に合わせた、内部、外部研修を行い、法人として資格習得を促進し、優先しての勤務希望、休日の考慮などを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	天草グループホーム連絡協議会や町の研修会に参加し、他事業所との意見交換、研修等を行った。		

グループホーム菜の花北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族及び居宅ケアマネからの情報提供に加え本人とも入居前面談、入居初期は関わりを深く持ち、本人の思いを知るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前見学や面談、入居時面談を含め、家族の思いを知るように努めている。面会時など気軽に話しやすい雰囲気づくりに心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時状況確認しサービス利用中の方は担当ケアマネと連携している。又サービス利用されていない方には申請の方法や地域包括支援センターに連絡対応を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理・洗濯たみ・掃除など本人の持っている力を引き出し職員と共に行えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や入居生活状況の報告をし在宅での暮らしぶりなどを知り、欲しい物やしたいこと、受診など協力してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのかかりつけ医や四季折々の行事に地域に出向いていた。その方の地区の敬老会に参加していた。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	言動・表情・行動などを見極め、孤立化せぬよう声かけ、会話、時には冗談を言い、気の合う仲間と交流されたり、利用者の行動を見守ったり、会話されたりと支え合う場面がある。		

グループホーム菜の花北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関入院された方にはお見舞いに出かけていた。ホーム生活での思い出など話したり、亡くなられた方にはお参りに行っている。施設入居された方には施設職員から現状を聞いたりしている。地域で家族からお話聞く場面もある		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言動、行動、表情から真意を推し量ったり、家族から聞くようにしている。家族の意向と本人の意向が食い違う場合はできるだけ本人本位されるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前担当ケアマネからの情報提供、本人との会話や家族、親戚、近隣の知人の方の面会時など把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の関わりや経過録、申し送り、個別カンファなどを含めて把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向の確認や本人との毎日の関わりの中から言葉・表情・行動から察知したカンファや担当者の意見を反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の関わりや経過記録や各チェック表、申し送りノートに気づき事項の記入や個別カンファで職員全員で共有し、定期、変化時に見直し活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ病院受診や外出支援など行っている。職員は業務優先とせず利用者優先を心がけている。		

グループホーム菜の花北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人のなじみの地域や知人などとお交流できる行事計画や参加、外出を行っていた。日常的に心身の力を維持改善できるような生活の中での支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を、本人、家族の意向のもと継続し、定期受診後、家族には面会時、また、変化時電話連絡や手紙で報告している。訪問診察を受けている方もいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を非常勤1にて配置、異常時等電話連絡にて対応している。必要時、かかりつけ医に連絡、受診介助している。受診結果は経過録や申し送りノート記入し職員全員把握できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時家族と共に主治医から治療方針、期間などを聞き、担当者に日頃の状況を口頭や書面で情報提供している。入院中もできるだけ面会に行き、経過を聞き、退院時は入院中の経過、退院後の留意点など口頭や書面で情報提供してもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時看取りまで行くことを説明している。重度化した場合、ホームでできる事を説明し、医療機関との連携を行い、本人、家族の意向を踏まえ、家族と共に尊厳ある終末期迎えられるようチーム全員で支援していく予定である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて緊急時対応や利用者の個々の対応など随時対応できるようにしている。急変時は管理者、看護師に連絡し、かかりつけ医受診等の対応を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地区の防災訓練や事業所での年2回の訓練を全職員で行っている。近隣住民の協力もあった。		

グループホーム菜の花北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人のプライバシーを保つよう心がけている。なじみの言葉かけや時には冗談で笑顔を引き出すようにしているが、危険行為や他の利用者の迷惑行為時などは注意する場面もあり、その後のフォローを行うようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言動・表情・行動などを見極め、さりげなく声かけしたり、準備したり、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、入浴や役割など一人一人のペースに合わせ支援し、その日の気分を見極め、気分転換や個別に会話し思いの把握支援に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後化粧水、乳液個別に支援し、衣服の選択など本人に行ってもらっている。理美容は本人、家族意向のもと、行きつけや福祉美容室を利用。外出時は本人、家族の希望の衣服を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日に旬の物や頂き物等みて行事食やメニューを相談、調理や後かたづけなど職員と一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の嗜好、食事量、形態を把握、提供し摂取されている。水分の入らない方にはとろみを付けたりお好きな物を飲んでいただくよう心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後誘導し一人一人の能力に応じて職員が見守ったり、介助している。就寝前はポリデントにて除菌や日中はコップ、歯ブラシの日光消毒や適宜ハイター消毒し清潔にしている。		

グループホーム菜の花北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、個別支援している。日中はトイレ排泄を基本に、排泄前のサインをキャッチし誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、乳製品、繊維質の多い食品の調理や排便時間把握や排便前のサインをキャッチし運動、腹部マッサージ、腹圧などにて支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度入浴日は設定しているが一人一人の体調や意志、汚染状況に応じ随時対応。入浴されない日は部分浴し清潔保持に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中役割やレク活動を行い生活のリズムを支援しているが、昼夜逆転の方には本人のペースに合わせ、職員が寄り添い支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルや服薬袋にて効能を把握できるようにしており、服薬チェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力を発揮できそうな事を準備支援している。行った後は必ず感謝の言葉を伝えている。行事、外出、レク活動など支援し気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナのためなかなか難しかった。コロナが少なくなったとき、他施設の家族に会いに行かれたことがあった。		

グループホーム菜の花菘北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を持って好きな物を買われる方もいる。家族に買い物頼まれたり、家族から預かり金を管理し出納帳を記録し家族に確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や本人の要望時、子機にて話されるように支援している。携帯電話利用されている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面キッチン、高低差のある調理台・洗面台・天窓やサッシからの採光。トイレには見やすい表示などでわかりやすくしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室・ホール・ウッドデッキには椅子、ホーム内空間には置物やお花、季節に合った飾り物など居心地の良い空間作りに工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時馴染みの物を持ってきていただくようにしている。簡単な家具を備えているが、自宅より持参される方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかりやすい表示、居室個別のれん、手すり設置やトイレ手すり、玄関段差赤テープ目印、ホールは車いす移動、空間は机や椅子を設置し、安全に配慮している。		

## 2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム菜の花苓北

作成日 令和 4年 5月 17日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	日々の業務に追われ理念が活かされていないときがある	全職員が理念を理解、共有し、理念に沿った関わりを持つことが出来る。	職場会議にて理念の振り返り、理念に込められた思いを深めていく。	12ヶ月
2	4	コロナ禍により運営推進会議開催が難しく、面会制限もあり施設の取り組みが家族に伝わりにくい。	家族との信頼関係を強くしたい。	面会時などは細やかに状況報告を行う。何かあれば電話、もしくは来園して頂き相談する。	12ヶ月
3	36	馴染みの関係になりすぎ、言葉かけや対応など誇りを損ねてしまうような対応になっているときがある。	言葉かけなど一人一人の人生を考慮し、尊重して対応する。	言葉遣いや対応に気をつけお互いに改善していけるような環境作り、定期的な研修の実施にて自己の振り返りを行う。	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。